

2021年9月12日 聖霊降臨後第十六主日礼拝説教  
「人の思いを捨てる十字架」(マルコ8章31～38節)

○マルコ8章31～38節について

「人の子は必ず多くの苦しみを受け…殺され、三日の後に復活する」(31節)

救い主イエスが、十字架につけられるため、エルサレムへと向かう時が近づいたので、ご自身の〈死と復活〉について話されたが、未だ弟子たちは、そのことを悟れなかった。

☞「そんなことがあってはなりません」(マタイ16:22)と言ってキリストの死を受け入れないペトロに、神の子イエスは「あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」(33節)と叱られ、神の御心に聴くことを求められた。

※キリストの命も働きも、十字架の死へと至るのみであり、わたしたちの救いも望みも、十字架からしか始まらない。

「わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほかに、誇るものが決してあってはなりません。」(ガラテヤ6章14節)

今日のみことば：マルコ8章34節

「わたしの<sup>あと</sup>後に<sup>したが</sup>従いたい者は、<sup>もの</sup>自分を<sup>じぶん</sup>捨て、<sup>す</sup>自分の<sup>じぶん</sup>十字架を<sup>じゅうじか</sup>背負<sup>せお</sup>って、<sup>したが</sup>わたしに<sup>したが</sup>従いなさい。」 \*わたし：イエス・キリスト

救い主イエスは、〈苦しみと死〉について分からずにいた弟子たちへ向けて「あなたの思いを捨て、わたしがあなたのために死ぬ十字架を背負え続けなさい」と命じられた。

☞わたしたちが捨てるべき〈人の思い〉とは、キリストの十字架に根差さない心、十字架の赦しを基にしない信仰。

「人から出て来るものこそ、人を汚す。中から、つまり人間の心から、悪い思いが出て来るからである。」(マルコ7章20、21節)

※わたしたちの命も、日ごとの糧も、与えられているものはすべて、救い主イエスのために献げていくもの。十字架を身に帯びながら、〈あなたの思い〉が抑えられるように。

「キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるため」(Ⅱコリント5:15)